



子どもたちの
“やってみたい”
を応援する

2020年度取り組み



神山町にふるさと納税をしていただいたみなさまへ

この度は、神山町にふるさと納税をしていただき、ほんとうにありがとうございました。

おかげさまで、2019年には118名の方から16,662,000円の寄附を頂戴いたしました。そのうち、使途として「教育応援事業」を選択して下さった方は、14名で15,099,000円でした。

教育応援事業は、子どもたちの好奇心や創造力から生まれる“やってみよう”を叶えることで、「自ら考え、行動し、生き抜く力」を育むプログラムです。大人、学校、まち全体で子どもたちの成長を見守りながら、ふるさと納税を通して応援しています。

いただいた寄附金は2020年度に予算計上し、町内すべての小中学校（広野小学校、神領小学校、神山中学校）と、一般財団法人神山まると高専設立準備財団に活用させていただきました。

実施した具体的な活動は次ページ以降に記載しています。みなさまのお力で成長した子どもたちの姿や、新たに生まれる高専の可能性をご覧ください。

教育応援事業を考えた背景

神山町は人口5,100人ほどの山あいのまちです。生徒数は一学年約20人の規模で、子ども一人ひとりを大切に、個性を伸ばす教育を実践しています。

このまちで長年暮らしてきた大人たちは、生活で積み重ねてきた知恵や工夫があります。最近、海外からのアーティストやサテライトオフィスで働く都市部の人に移り住んで、新しい文化や知恵を持ち込んでいます。その両者が互いに刺激し合って、融合し、新しいアイデアが生まれ、“やってみよう”とチャレンジする大人が増えてきているのが、いまの神山です。

チャレンジには大きな学びがあり、うまくいくことやいかないこと、また、苦労したり、工夫したり、考えたり、話しあったりすること。そういった機会を子どもたちが体験することで、「自ら考え、行動し、生き抜く力」を長期的に養うことを目的としています。このまちで育った子どもたちが、やがて新しい舞台上で活躍できることを期待しています。

広野
小学校

小学校の キャラクターを つくりたい!



◎学校紹介

広野小学校は2017年に神山東中学校が使っていた校舎に移転しました。現在は、広野地区、阿川地区、鬼籠野地区の一部に住む27人の児童が通っています。

毎年9月に開催される広野地区大運動会は、小学校だけでなく、広野保育所や老人会の高齢者、消防団の人たちなどと一緒に、地域一体となって取り組まれており、広野地区の伝統になっています。

「元気な子」、「やさしい子」、「がんばる子」を広野小学校の目指す児童像としています。

1. やってみたいこと

5、6年生の7人が中心となって、「すだちのゼリーをつくりたい」、「広野小学校のキャラクターをつくって、アニメにしたい」などのさまざまなアイデアを持ち寄り、活発な話し合いをしました。最終的には、「広野小学校のキャラクターをつくる」案に決まり、全学年からキャラクターを募集することになりました。



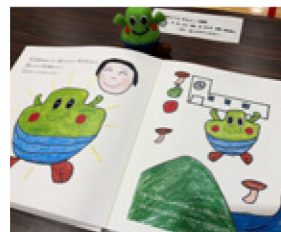
2. 取り組み

自分たちのやってみたいことをまとめ、町長や教育長らに提案した上で、全学年からキャラクターのアイデアを募集しました。全28案の中から、生徒や先生、保護者の投票により、「広野ふじくん」に決定。学校から見える広野富士と呼ばれる山をベースに、まちなの特産物である梅干しや椎茸などをモチーフにしました。



3. できたこと

運動会や学習発表会の機会を通して、「広野ふじくん」を制作したことを地域の人に発表。うちわや入場券に印刷したり、制作過程や背景なども報告しました。また、「広野ふじくん」の目線に立った絵本や、買い物に便利なトートバックも制作。地域の人たちに愛されるキャラクターとして、今後の展開が楽しみです。



◎感想

自分たちだけで最初から最後まで計画・準備・実行したことは、今までなかったもので、それができたことにすごく満足しています。仲間とともに普段できないような体験ができてよかったです。

ふるさと納税事業を通して、選挙のしかたやPRの方法を考えたり、町長さんたちの前で考えを発表できたのは、大きな経験になりました。僕たちのためにご協力くださり、ありがとうございます。

神領
小学校

お年寄りに 元気を 届けたい!



◎学校紹介

神領小学校は1981年に大埜地に移転。現在では、神領地区や上分地区、下分地区、左右地区、鬼籠野地区の一部に住む82人の児童が通っています。

1920年頃にアメリカから贈られてきたアリス人形は、現在も神領小学校で大切に保管されており、毎年2月に「アリス祭り」を開催し、この人形を通して、子どもたちの平和を願う心を育てています。

「思いやりのある子」、「何事にも進んで取り組む子」、「明るく元気な子」を神領小学校の目指す子ども像としています。

1. やってみたいこと

神領小学校では、毎年2年生と5年生が神山町内にある養護老人ホーム「寿泉園」を慰問し、高齢者の人と交流をしています。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染予防のため大人数での慰問をすることができません。そこで、実際に慰問をすることができなくても、高齢者に喜んでもらえるため、さまざまなプレゼントを制作し、渡すことになりました。



2. 取り組み

いつまでも元気で長生きしてほしい、という想いを込めて、プレゼントを5つ制作しました。

折り紙でつくった星を瓶詰めした“ラッキースター”やメッセージカード、春夏秋冬をテーマにした絵、色とりどりの花を描いた「寿泉園」の旗、そして、まちの特産品をモチーフにしたキャラクターのぬいぐるみです。



3. できたこと

5年生が代表して「寿泉園」を慰問し、みんなで制作したプレゼントを職員の方に渡しました。

新型コロナウイルスの影響のため、高齢者のみなさんに直接会って、手渡しできませんでしたが、職員の方からは、「きっと喜んでくれるよ」と太鼓判を押してくれました。プレゼントは施設の中で飾ってもらえるそうです。



◎感想

折り紙で1,000個分のラッキースターをつくるのは大変だったけど、みなさんが喜んでくれると思うと、がんばることができました。また、仲間とはげましかって協力することの大切さを学びました。

ぬいぐるみの名前を「じゅくん」と「せんちゃん」にするなど、寿泉園のみなさんに親しみを持ってもらえるように工夫しました。私たちの気持ちが届いて、元気になってくれるとうれしいです。

神山
中学校

まちに 元気を 取り戻したい!



◎学校紹介

神山中学校は、2016年に神山東中学校と統合し、神山町内唯一の中学校となりました。現在55人の生徒が通っており、「やり遂げる」を校訓としています。

2年生の時に開催される立志式は、自分の将来について考える大切な機会となっており、伝統行事として現在も行われています。

2022年度には、これまで町民グラウンドとして使用していた場所に新しい校舎が完成します。それに伴い、現在の校舎からの移転を予定しています。

1. やってみたいこと

新型コロナウイルスの影響により、これまでまちで開催されていた多くのイベントやお祭りが中止となった2020年。そんな状況下でも、「まちな人に元気になってもらいたい」、「お祭り気分だけでも味わってもらいたい」と考え、神山中学校の生徒会が中心となり、「道ばた祭り」を企画・開催するようになりました。



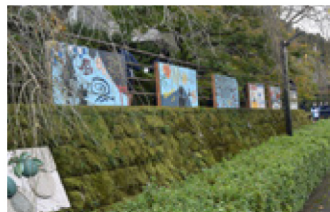
2. 取り組み

「道ばた祭り」の企画について、学校や町長、教育長に発表しました。縦1m×横2mの巨大なベニヤ板に絵を描き、飾ることで道行く人たちの目を楽しませ、元気になってもらうという試みです。全校生徒で考えたお祭りやイベント、新型コロナウイルスの感染予防をテーマとした絵を、協力し合って制作しました。



3. できたこと

道の駅「温泉の里 神山」にある駐車場から見えるスペースに、制作したパネル10枚を飾りました。それにより、地元の人だけでなく神山のまちを訪れる多くの観光客にも見てもらえました。3週間の展示期間が終了した後は、神領小学校と広野小学校に寄贈して、縄跳び板として有効に活用してもらうことにしました。



◎感想

授業でパネルを作成していく中で、生徒同士の絆も深まりました。道の駅にパネルを展示し、多くの方に見ていただいて、少しでもお祭り気分を味わってもらえたら、とてもうれしいです。

イラスト案をパネルのサイズに拡大して描くのに苦労しましたが、全校生徒みんな笑顔でとても楽しく協力しながら、活動できました。私も大人になったらふるさと納税をしたいなと思いました。

神山
まるごと高専

未来の シリコンバレーを 生み出したい！



◎学校紹介

神山まるごと高専は、2023年4月開校予定の新設高等専門学校です。

「テクノロジー×デザインで、人間の未来を変える学校」をコンセプトに、社会を切り開く人材を、神山のまちにご協力いただきながら育成します。学生数は一学年40人のマイクロ高専です。200人の学生が居住できるように、学生寮を高専の校舎近くに建設予定。学校で学んだスキルやノウハウを、神山のフィールドで実践し、まちにも貢献します。



◎実現したいこと

最先端のテクノロジー教育とデザインに関する教育。そして、起業家精神を育み、10年後、20年後の社会を牽引する、切り開いていく人材「起業するデザインエンジニア」を育成します。

卒業後は、就職、大学への編入、また起業といった道を選択し、社会のイノベーション創出に貢献します。このような成果が連続することにより、「神山町から未来のシリコンバレーを生み出す」ことを目指します。

◎2020年度取り組みと成果

今年度は、学校長候補に大蔵峰樹 (ZOZO元CTO) 及び、理事長候補に寺田親弘 (Sansan代表取締役社長/CEO) を選出しました。また、クリエイティブディレクターとして山川咲 (Crazy Wedding創業者) が就任し、高専づくりの体制を強化しています。建設計画及びカリキュラム計画も順当に進展をしています。

現在、神山町に移住し教鞭を執る、教職員の採用活動を強化しております。

◎寄附者様へのメッセージ

この度は神山まるごと高専にご寄附いただき、誠にありがとうございます。ご寄附は無駄を発生させず、丁寧に学校づくりに活用させていただきます。

また、本プロジェクトの進捗は、公式Twitterや公式noteを通してお伝えいたします。



写真左から、寺田親弘、大蔵峰樹、山川咲

町長からのメッセージ

神山町長
後藤正和



神山町へのご寄附、誠にありがとうございます。

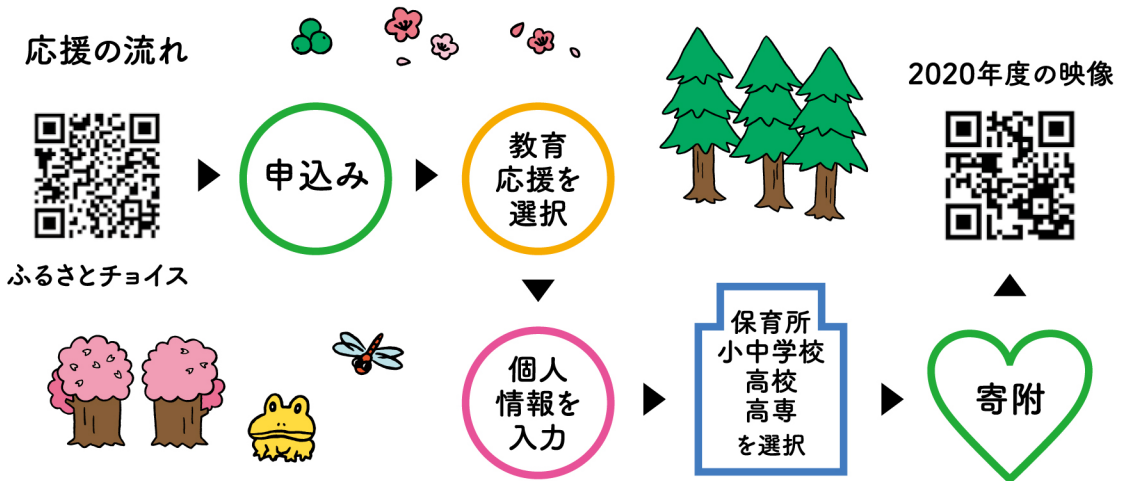
おかげさまで、子どもたちが生き生きと、自分の発想力を引き出しながら、取り組むことができました。

ふるさと納税を通して、神山町に寄附してくれている方々がいらっしゃることを学び、みんなで使い道を考えてかたちにしていく。通常の義務教育にはない実践教育を学ぶことができました。また、私自身も、子どもたちから直接プレゼンを聞く機会がありましたが、子どもたちの可能性は無限大である、と実感しました。

大人がつくったストーリーや筋書きではなく、子どもたちが自分で考えて歩いていく過程で、みんなで工夫をしながら何かをやり遂げる。そういった経験は、今後、子どもたちにとって大きな財産になる、と感じています。

教育応援事業が発展的に継続できるよう、今後ともみなさまの応援をお願いいたします。

応援の流れ



編集後記

神山町には大きな方針として、「まちを将来世代につなぐ」というテーマがあります。

好奇心旺盛な子どもたちが自分たちの力でチャレンジする。そんな機会を大人が応援する教育応援事業。今年がはじめての試みだったので、できるだけ多くの現場に立ち会いました。

子どもたちの生き生きとした姿を目の当たりにし、寄附者のみなさまに胸を張って報告できる内容となりました。将来世代の可能性を広げるために、さらなる展開を目指しますので、引き続き応援よろしく申し上げます。

神山町役場 総務課／平嶋基曜・駒形良介 神山つなぐ公社／杼谷学



[お問い合わせ]

神山町役場 総務課
徳島県名西郡神山町神領字本野間100
電話：088-676-1111
メール：soumu@kamiyama.i-tokushima.jp